株式会社ジェイコム埼玉・東日本
（越谷・春日部局、草加局、埼玉県央局）
2023 年度 放送番組審議員会　議事録

【日　時】　2024 年 3 月 12 日（火） 10 時～11 時 30 分

【場　所】　株式会社ジェイコム埼玉・東日本　越谷・春日部局

＜放送番組審議会委員＞

ご 出 席　（五十音順）

尾 堤　宏　様（審議会会長）	小 松　政 毅　様
片 平　貢 丈　様	三 輪　祐 子　様
川 西　潤 一　様	宮 城　美 由 紀　様

＜事業者：株式会社ジェイコム埼玉・東日本＞

埼玉県央局局長	髙 田　康 二
草加局局長	畠　直 樹
越谷・春日部局局長	美 濃　昌 輝
地域コミュニケーション統括部	木 村　亜 希 子
地域コミュニケーション統括部	松 井　菜 摘

（制作担当）

JCOM 株式会社　J：COMプロダクション 本部	大 橋　洋 一
JCOM 株式会社　J：COMプロダクション本部	北 條　英 行

1．開会 （事務局）

・出席者の紹介

・事業者紹介

2．J:COM の取り組み報告 （髙田）

・企業紹介

・新サービス説明（J:COM TV シン・スタンダードについて）

・イベントトラックについて

3. J:COM チャンネルの報告 （大橋）

・J:COM チャンネル　制作体制/編成方針/地域情報番組説明

・コミュニティチャンネル紹介 VTR 視聴

4. 番組審議 （3番組）

▎こちら J:COM 安心安全課

・番組説明（北條）

内容: 番組は 10 月より放送開始（3 分番組）

SNS［YouTube］［Note］を中心にデジタル配信も実施

（ご意見/三輪委員）

・3 分という尺が見やすい。

・テンポも良く、番組最後に何が伝えたかったのかをまとめてありよかった。

・必要だと思っていても興味を持ってもらいにくい内容のため、どうやって知ってもらうかが課題だと感じた。

（ご意見/宮城委員）

・番組内容が非常に濃い。3 分の中で伝えたいことがきちんと伝わっている。

・ネタ元は、どのように集めているのか疑問に思った。

⇒（回答/北條）

・地域の皆さまに「安心安全サポーター」になっていただき、いざという時に情報交換がすぐに出来る関係を結んでいる。サポーターの皆さまからいただいた情報から番組を作っている。

・制作担当者自身でもリサーチして、埼玉県内の情報を集めている。

（ご意見/片平委員）

・三郷市で子供たちがこんな取り組みをしているということを知った。他の地区でも「ぜひやってみたい」と思う人は沢山いるのではないかと感じた。

・この体験を経て、子供たちが「どんなことを学んだのか」など、子供たちに感想などをイ

ンタビューするとより共感を生むと感じた。

（ご意見/川西委員）

・「知っている人は知っているが、知らない人は全く知らない」という、日の当たりにくい情報を扱っているのが J:COM ならではだと感じた。

・「こちら JCOM 安心安全課」というタイトルが面白い。

（ご意見/小松委員）

・よくまとまっている番組だと感じた。

・全国の市町村の「安心安全担当」の課などにチラシなどを配布すると、番組PRになるのではないかと感じた。

（ご意見/尾堤委員）

・（チラシについて）連絡先などが記載してあったら、「聞いてみよう」と思う人もいるのではないか。

（回答/北條）

・（番組内容が濃いという話について）全国 7 拠点で番組を制作しており、事前に説明させていただいた「note」のページに 100 本以上の制作済み番組（動画）をアーカイブしている。

▌地域発！未来へつぐむ安心安全

・番組説明（北條）

安心・安全に関する様々な地域での取り組みを市民の皆様へお届けすることを目的に、四半期ごとに 15 分の番組を企画・制作

（ご意見/三輪委員）

・3 分に比べると、（見る側として）どうしてもハードルが上がりやすいところがあると感じた。

・普通の人は防犯意識がまだ低い。自分の身の回りの常備品をどうしようかというレベルだと思う。そのため、取り組みを紹介しても、「みんなこれ普通にやっているのでは？」と

思う人もいると感じた。そのため、取り組みに対して何か比較対象があると解りやすいと思う。「ここ行政は、他と比べて特に〇〇に力を入れている」など。

（ご意見／宮城委員）

・人物にクローズアップして、役割などを紹介されていたところが非常によかった。
・ボランティアのような活動はなかなか日の目を見ないため、今回の様に活動を具現化して、多くの方に広めていくことは必要だと感じた。
・「こちら JCOM 安全安心課」と「地域発！未来へつぐむ安心安全」の立ち位置の違いがよくわからなかった。
・どう PR していくのか、もっと多くの人に見てもらうにはどうしたらいいのかが課題。
・イベント先での PR（イベントトラックを活用してなど）の仕方もあるのではないか）。

（ご意見／片平委員）

・内容は素晴らしいと感じた。
・他の町でも、「自分たちで解決できるんだ」と気付けるきっかけの一つになったのではないか。
・各団体の側面（苦労したところ／努力したところなど）も描かれていると、地域課題を抱えている人たちにとって参考になるのではないかと感じた。
・全体的には、地域課題・地域コミュニティが体現されている素晴らしい番組だと感じた。

（ご意見／川西委員）

・行政・市民・企業が連携した取り組みは結構あるが、やはり「知っている人は知っているけれど、知らない人は知らない」。それをまず紹介することで「知ってもらえる」という意義がある。
・活動だけにスポットを当てるだけでなく、最後に「どのような成果があったのか」を放送しているのが素晴らしい。

（ご意見／小松委員）

・最初に「今回の取り組みは NPO 法人の活動です」など、主軸の団体に対する説明があってから、番組の中身に入っていく方がいいと感じた。（※PTA の取り組みなのかと最初誤解していたため。）

（ご意見/尾堤委員）
・最初に各団体/当事者の相関図みたいなものがあってもよかった。

（回答/北條）
（※PR が課題という話について）
・番組を色々なところで PR していくやり方も、もちろんしていかなければいけない。
・現在は、「安心安全サポーター」に登録していただく際に、番組のページにすぐ飛べる二次元コード、安心安全の番組ロゴが入った防災グッズ（エマージェンシーボトルキット）をお渡しして、常に番組アクセスしていただくよう工夫している。
・「note」のフォロワーを増やしていきたいと考えている。フォロワーが増えれば、視聴者が増え多くの動画を見ていただける。
・２月から３月にかけて、「note」の会社との企画協力で、ハッシュタグをつけて記事を応募・参加してもらう企画をしている（※参加した方は、note のページフォロワーになっていただける）。
・「note」のページを見ていただきながら、動画にアクセスしていただきたいと考えている。

（ご意見/三輪委員）
・番組「埼玉の逆襲」とのコラボはどうか。
⇒（回答/北條）
・「埼玉の逆襲」では面白い取り組みがたくさんあるので、コラボも含めて PR していきたいと考えている。

（ご意見/尾堤委員）
・SNS も、もっと気軽に入っていけた方が、ホームページの対応よりもいいと思う。
・（note との期間限定企画について）ハッシュタグも「もしもの備え」ではなく、「防災」「安全」「地震」など、簡単な内容含めいくつもあっていいのではないか。

（ご意見/三輪委員）
・「note」もクイズなど、何か答えたくなるような投稿をした方がいい。

（回答/北條）
・（note との期間限定企画について）ハッシュタグ「もしもの備え」は、「3.11」を踏まえて設

定した経緯があります。

■ 特別番組「埼玉の祭り」へのご意見

・番組説明（北條）

埼玉県内のお祭りやイベント、スポーツ大会を生中継で放送。

今回は、「久喜提燈祭り」「南越谷阿波踊り」「草加よさこいサンバ」について意見を頂きたい。

（ご意見/小松委員）

・地域のお祭りを取り上げるのはとても良い。地域の放送局ならではだと思う。

・ライブ中継は、現地に行けない人にとってはお祭りを感じられるコンテンツなので、もっとやってもらいたい。

（ご意見/川西委員）

・見せ方が進化している。非常に見やすい。ダイレクトに伝わってくる形式で映像が撮られていると感じた。久喜提燈祭りは迫力が映像から伝わってきた。

（ご意見/片平委員）

・全てのお祭りで特徴がすごく捉えられており迫力があり魅力的だった。

（ご意見/宮城委員）

・（久喜提燈祭りについて）提燈祭は珍しいお祭りであり、山車も出ていたので、テロップで説明が入るとより解りやすく、次回行ってみよう、生中継を見てみようというきっかけ作りになるのではないか。

⇒（回答/北條）

・本編ではテロップも挿入して放送している。

⇒（回答/大橋）

・情報を出すバランスがすごく難しいと痛感している。伝統ある行事の歴史の部分を紹介しながら、山車の紹介をするべきだと思っているが、どの程度するべきか少し慎重にやらなければいけないと考えている。

（ご意見/三輪委員）

・お祭りの本質は「神事」にあると思う。「なぜこのお祭りをやっているのか」を伝えていただくことに意味があると思う。

・参加者目線の部分を追加していただきたい。「お祭りグルメの魅力」など。

（ご意見/尾堤委員）

・お祭りの歴史や関わっている人たちの裏側も挟み込むと面白いと思う。

5. 閉会（畠）

貴重なご意見ありがとうございました。

ヒントになることが多く、番組 PR については大きな課題だと感じていますので、日々考えを深めていきます。

そして、今後も各コンテンツを試行錯誤しながらより良い番組を作成していきますので、引き続きご意見いただければと思います。

以上